

遊文通信

Vol.05

本と読者をつなぐもの——装丁

Wikiによると、「装丁とは、一般的には本を綴じて表紙などをつける作業を指す。広義には、カバー、表紙、見返し、扉、帯…のデザイン、また製本材料の選択までを含めた、造本の一連の工程またはその意匠を意味する」とあります。つまり、書物の「外装」を（美しく）仕上げるデザイン技術のことです。

デザイナーの世界で「ブックデザイン」として位置づけられる場合は、この「外装」にさらに「本文」を含み、内容にふさわしい本文組の体裁まで含めたトータルなデザインを追求します。「造本」と呼ばれます。

書店にて本を購入する際にきっかけとなり、まず目に飛び込んでくるのは見た目の装丁でしょう。本の中身より装丁の印象、美しさなどで購入される方も多いため。それだけ視覚的に飛び込んでくるインパクトは重要な部分でもあります。

文庫本『蟹工船』が大当たりして蟹工船ブームまで巻き起こしたのは、表紙に劇画タッチのデザインを採用したことが大きいと言われ、その後も古典作品が同じ路線で続々とリメイクされています。最近では「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」が「もしドラ」現象を巻き起こし、100万部を突破しました。

装丁のリーディングパーソンとしてファンの多い、

平野甲賀は「装丁が本と読者をつなぐんじゃない。本と読者をつなぐのは、あくまでもその本の中身だと思う。装丁はちょっとしたサービス。

ぼくができることと思ったら、その出版社がある感じをもって本を出しつづけている——その動きをサザナミみたいに、できるだけ気持ちよく表現していくことぐらいじゃないかな」と謙虚に語っていますが、当世、装丁が占める役割はますます大きくなってきているようです。

平野甲賀（ひらの こうが）

昭和13年7月5日朝鮮京城生まれ。武蔵野美術学校（現武蔵野美術大）在学中の昭和35年日宣美展で特選。高島屋勤務ののち39年フリー。書き文字による装丁で知られる。59年講談社出版文化賞ブック・デザイン賞。著作に作品集「平野甲賀—装丁の本」「僕の描き文字」など。

本の魅力を最大限にアピール

遊文舎もこの装丁、造本を強みの一つとしています。最初のラフ案は、デザイナー2～3人が競作します。本の中身をできるだけ理解し、自分なりの方向性とコンセプトを決定します。作品の意図をいかにイメージしてビジュアル化するかが勝負です。

最初からデザイナーが著者・編集者・出版社と直接打合せする場合がありますが、たいていは間に営業マンが入り、クライアントの意図を的確に伝えます。営業マンにもデザイン的な感性が必要です。

紙の選定も印刷物ならではの大事な要素。手にした時の手触り感を大切に、膨大な特殊紙のなかから選びます。

デジタル時代になり、誰もがパソコン上でビジュアルを確認できるようになりましたが、美術的な知識、センスはもちろんのことIllustratorやPhotoshopといったアプリケーション能力、そしてなによりも活字の知識などがあって初めてデザイナーと言えます。

商品としての本も売れなければ意味がありません。私たちは商品の魅力を最大限にアピールし、売れる形にすることがデザイナーの使命だと考えて、日々切磋琢磨し、おかげさまで国内のいろんな賞を頂戴しています。



真っ盛りの
スタッフシリーズ

おのちゃんがイク!! vol.5

おなじみの「おのちゃん」、現役でありながら伝説を生み続ける彼を小説風に紹介します。
(この小説はフィクションです)

営業車を運転する坂辺に小野は助手席から問いかけた。
「今からまわるところは、どのような業種のクライアントなんですか」
「ん、ああ、あそこなあ、ゆうたら食品メーカーや、自社で販売部門も持っていてなかなか中堅にはがんばってはるよ、知らんかな「大ちゃんうどん」で…。最近スーパーでもよう売とるやろ」
「いえ、ちょっと知らないです」
「ほんまか…なんやったら食うて行くか？」
「いえいえ、結構です」
「なんや、腹へってへんのか」
「そ、そうではないです…」
翔文館印刷から車で約15分ほどの距離に多々美屋食品株式会社がある。
今年で創業25年を迎える業界では中堅クラスの食品メーカーで、ここ大阪市都島区に本社を構え、従業員は社員、パートも含め約100人。いわゆる“粉物”がメインの食品会社で近年のヒット商品は「大ちゃんうどん」。国内産小麦を使用した生のうどんが真空パックされ、特製の甘ダレがセットになっており2食入りで222円(税込み)。
パーキングに車を入れ、坂辺と小野は多々美屋食品の受付へと入っていった。
「ああ、坂辺さん、いらっしやい」

受付嬢の高本真理子が笑顔で迎えた。坂辺が多々美屋食品を担当して約7年。高本は3年前に入社して以来ずっと受付業務をしており、坂辺の事はよく知っていた。「毎度、こんにちは…虎吠部長居ります？」
「ああ、おったかなあ…ちょっと聞いてみますね」
高本は受話器を片手に内線番号を押した。見慣れない小野の姿が気になるのか何度も小野に視線を向けていた。
「高本です。虎吠部長宛てに坂辺さんが来られてますけど居ります？…ああ、そうですか、分かりました、は～い。…坂辺さんごめん、ちょっと近くに出てはるみたいやねん、どうしましょう？」
「あ、ほんまですか、どないしよかな…」
「なんやったら待っときはります？、多分すぐ帰ってくると思いますけど」
(つづく)

次回
予告

真っ盛りの
スタッフシリーズ

次回「おのちゃんがイクVOL6」は“伝説の営業マンおのちゃん 第1話の3” (予定) ※内容はやむを得ず変更になる場合がございます。ご了承ください。

デザインから印刷までのトータルサポートサービス

カタログ印刷、冊子印刷、チラシ印刷、名刺印刷まで。大阪No.1のスピード印刷サービス!

最短
3時間で印刷
名刺20枚
¥1,500

すぐスル.com 誕生!!

デザインラボ

完全データ作成、デザインおまかせください

印刷通販サイトすぐスルの価格設定は、お客様が印刷用データを作成されている想定となっております。

しかし、そこはプロに頼みたいお客様も多いはず。品質アップと時間節約の一挙両得を実現する「すぐスルデザインラボ」をぜひ活用ください!

- 1 すぐスルではお客様にご用意いただいた素材をもとに印刷データの作成(デザインの作成)を行っています。まずはお使いになる写真や文字情報などをご準備ください。
- 2 お客様のご準備が整いましたら原稿はメールやFAXでお送りいただいても構いませんが、遊文舎にご来社いただきデザイナーと直接打ち合わせていただくことをお勧めします。
- 3 いよいよデザイン開始です。完成したデザインをメール(画像)で送信しますので修正や変更があればご指摘ください。校正(修正)は3回まで無料でいきます。
- 4 校了後、印刷→加工→納品
※校了後の内容変更はお受け出来ません。見落としがないように、サービス内容・価格・営業時間・住所・電話番号など、入念にチェックしてください。

原稿作成から相談したい方

より効果のある印刷物を作成したい方

TEL. 06-6304-9325

(担当:坂根・苗村)



編集後記

第5号の『遊文通信』はいかがでしたか?
次回からは少し模様替えをしようか、とか人気コーナーは継続しようかとか…
思い切って題字まわりの色や文字を替えようかとか10号記念号からにしようか…
う～ん、印刷会社だけに思案(シアン)中です。わかるっかな～ (Dandy)

次回、
News Letter
Vol.6を
おたのしみに!